

三田市教育振興基本計画検討委員会（第6回） 会議録

| | |
|-----------|---|
| 日 時 | 令和3年9月22日（水） 午後7時から午後8時40分 |
| 開 催 場 所 | 三田市役所南分館6階601会議室（オンライン会議併用） |
| 出 席 委 員 | 佐藤 真、中間 玲子、尾上 尚司、大東 真弓、藪田 昌夫 下中 邦昭、橋本 真由美、松本 衣里香、岸本 高太郎 |
| 欠 席 委 員 | 仲矢 史雄 |
| 学 校 関 係 者 | 谷本 正弘、岡崎 正文、吉田 裕彦、廣瀬 みちか |
| 事務局出席者 | （教育長）鹿嶽 昌功 （学校教育部長）松下 修 （地域創生部市民協働室長）曾根 義隆 （子ども・未来部子ども未来室長）横溝 裕香子 （子ども・未来部子育て応援室長）西垣戸 泰 （学校教育部次長）外岡 明文 （教育総務課長）浅野 晋司（学校教育課長）山本 直也 （教育支援課長）山口 貴久（教育研修所長）小山 恵介 （学校給食課）廣瀬 敏彦（教育総務課担当課長）上野 樹 （学校教育課主幹）神戸 康正（教育総務課主任）鈴木 さやか （教育総務課指導主事）松田 成行 |
| 議 題 | 1 開会 2 委員長あいさつ 3 議事 （1）第5回会議録について【資料1】 （2）第5回委員意見について【資料2】 （3）計画素案について【資料3】 （4）参考資料について【資料4】 （5）答申（案）について【資料5】 4 その他 5 閉会 |
| 傍 聴 人 | 2名 |

会議の概要

| | |
|---------|---|
| 事務局(司会) | 1 開 会 予定の時刻となりましたので、只今から第6回三田市教育振興基本計画検討委員会を開会させていただきます。本日の司会を担当させていただきます、三田市学校教育部の外岡でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。本日は、半数以上のご出席をいただいておりますので、三田市学校基本計画等委員会規則第3条第2項の規定により、会議が成立していることをここで報告させていただきます。それでは開会にあたりまして委員長よりご挨拶申し上げます。 |
| 委員長 | 2 委員長あいさつ (挨拶) |
| 委員長 | 3 議事 (1) 前回(第5回)会議録について 前回会議録の承認 (異議なし) |
| 事務局 | (2) 前回(第5回)委員意見について 事務局(説明) |
| 委員長 | 前回修正案の承認 (異議なし) |
| 委員長 | (3) 計画素案について それでは、計画素案について移りたいと思います。計画全体を通して審議を進めていきたいと思います。各委員の皆さまから、ご意見やご質問はございませんでしょうか。 |
| 学校関係者 | 生徒指導の充実について、生徒指導で大切にに取り組んでいることは何かと改めて考えると、43 ページの2行目に「子どもたちに日々関わっている大人が、いじめは絶対に許さないといった意識と、子どもの小さな変化も見逃さないことが重要であることがうかがえます」とあります。この「小さな変化を見逃さない」ことこそ現在、大切にしているところです。 特に学校現場では「いじめ見逃しゼロ」という取組、「いじめ対応チーム」による組織的な対応、「生徒保護者との信頼関係づくり」、「生徒理解」のこの4点を特に大切にしているので、これらを含めた文章を作成しました。 43 ページの「施策の方向」の3行です。 「今後も児童、生徒や保護者との信頼関係を深め、いじめの早期発見、早期対応、そして小さな変化も見逃さない、いじめ見逃しゼロに組織的に取り組みます。また、いじめを生み出す構造的な課題に目を向け、いじめの未然防止をめざした取組を進め、すべての子どもたちが安心して生活して学ぶことができる学校づくりを進めます」と、私なりに考えてみました。限られたスペース内ですので、このような思いがあるということを知っていただければと思います。 |

| | |
|-----|---|
| 委員長 | 事務局でご意見はありますか。 |
| 事務局 | ご指摘は最もだと思います。特に、その4点は、生徒指導の根幹を成すと感じています。文章中にそうした考え方を反映すべく、表現をしていますが、ご指摘はより具体性があり、わかりやすいと思いますので、ご意見を踏まえて、事務局で文言の整理を進めていきたいと思っています。 |
| 委員長 | この場で済むというのはなかなか難しいと思いますので、修正があり、この場で対応が不可能な場合は、委員長、副委員長預かりとさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。 (異議なし) |
| 委員長 | 生徒指導提要が文部科学省から出されていますが、ここに生徒たちの「自己指導能力を育む」という概念が出ています。いつも親や大人がついていないと何もできないということでは困りますので、やはり自立的に立ち向かっていくというような「自己指導能力」という言葉もどこかに入れて、直したいと思います。 |
| 委員 | 「いじめを生み出す構造的な課題」というのは、どのような意味でしょうか。 |
| 事務局 | いじめが起こった時に、いじめる加害者といじめられる被害者とそれを取り巻く子どもたち、傍観者と仲裁をしていく子どもたちとそのような4層的な構造というのが言われています。 |
| 委員 | それもあると思いますが、学校特有の閉鎖的な文化にいじめを生み出す構造があるのではないのでしょうか。 |
| 事務局 | 学校を閉鎖的な文化とおっしゃいましたが、どのようなことをイメージされていますでしょうか。 |
| 委員 | 保護者が思ったことを言えない、子どもたちも辛いことを言い出せない、それを閉鎖的な文化というのは乱暴かとは思いますが、そのような空気も構造になりませんか。 |
| 事務局 | ご指摘のように、なかなか子どもが声を上げにくい、保護者が相談しにくいなど、個別の事情がないとは言えませんが、いじめ問題は、いじめ防止が法律で定められていて、ご指摘のようなことが絶対にあってはならないです。 そのため、学校も地域や保護者と話をしながら、ご指摘のような状況が生じないようにするためにここ数年進めてきています。 |

| | |
|-------|---|
| 委員長 | 作家の山本七平の名著に『「空気」の研究』がありますが、空気を言語化するのはなかなか難しく、「開かれた学校」といった風通しの良い言葉で工夫していただければと思います。 |
| 学校関係者 | 委員のご意見と同様に私も考えますので、施策の方向の1行目の文言には「児童と保護者との信頼関係を深め」としました。信頼関係づくりはなくてはならないと考えています。 |
| 委員長 | 再度、家庭や地域との連携を強め学校を少し広めて考えた方が良いと思います、43ページ程度余白があるようですので、先ほどのご意見も含めて工夫をしてみたいと思います。この点も預かりにしたいと思いますが、ご承認いただけますでしょうか。 (異議なし) |
| 委員 | 手元の資料は、今回の会議後に冊子や本になって教職員や保護者の手元に届くような形になりますか。 |
| 事務局 | 現在審議いただいている内容は、委員長に預かっていただいた意見をもとに文言修正を行い、10月6日に答申をいただく予定としています。 答申をもとに、三田市教育委員会の計画素案を作成し、計画素案が整いましたら市民へパブリックコメントとして公開します。 教職員の皆様、議会の皆様にもご意見を求めて修正が必要なところは更に修正を加え、最終的に計画書として作り上げていく流れとなっています。 もちろん、計画ができましたらホームページ等で公開します。皆様にもご案内させていただきます。 |
| 委員 | なぜこのような質問をさせていただくかと言うと、公開時に、現場で働いている教師がこの計画を見て、「机上の空論ではないか」と思われたいか不安があります。 「先生の質を高める」や「いじめをなくそう」等の文言は、業務の多忙化やモンスターパーエレントの増加、人手が足りない等の教育現場の体制の不備によって、本来できるものができない状況にあるのではないかと思います。上からの押し付けのようにならないように、これをもとに教職員や現場の声を踏まえて、さらに新たな案ができるということによろしいですか。 |
| 事務局 | その通りです。市民に広くパブリックコメントを募集すると共に各学校を通じて教職員の意見も聞き、反映できるものは反映させたいと考えています。教職員の代表としては、委員会に幼稚園、小中学校、特別支援学校の校長先生と園長先生にも参画いただいていますので、現場の意見も聞いていくことになっています。 |
| 学校関係者 | 幼児期の教育の54ページと80ページにあります「預かり保育実施日の拡充についての目標」の表記が「週5日10園」となっていますが、「教育の充実の現状と課題」の |

| | |
|-------|---|
| | 「再編に向けての取り組み」にも記載がありますように、全10園とせず、全園で良いと思います。 |
| 事務局 | 委員のご指摘の通りに、週5日全園に改めたいと思います。 |
| 委員長 | (4)に進みます。 |
| 事務局 | (4) 参考資料について 事務局(説明) |
| 委員長 | 参考資料についてご質問やご意見ございませんか。 |
| 学校関係者 | 2ページを見ますと虫食いになっているところが見受けられます。この項目は全国・学力学習調査がもとになるため、昨年度はコロナの影響で実施されず記載されていないところがあり、アンケート調査も項目が変わると後の調査ができないために、虫食いになっていると思います。 しかし、この基本計画は三田市の計画ですので、最初に立てた項目について5年間はしっかりとアンケートを取っていくべきで、小学校6年生や中学校3年生については、市独自のアンケートで同じ項目で調査を行うべきかと思います。 |
| 事務局 | 事務的なこともございますので、一度内部で検討させていただきたいと考えます。 |
| 学校関係者 | 子どもたちは、タブレットを持っていますし、タブレットのアンケート機能を使えば、集計作業なども簡単にできるのではないかと思います。ICTの機能を使いながら、きっちりアンケートを取っていただけるとと思います。 |
| 委員 | 12ページの「子ども子育て支援計画事業」にある「ひとり親家庭への支援」「保護者に対する就労支援や経済的支援」の項目ですが、非正規のお母さんたちが多く中でコロナ禍のしわ寄せが女性中心に来ています。女性に対する支援は子どもの豊かさに繋がると思われるので、どこかにそうした表現があれば、お母さんも心強いかと思います。 |
| 事務局 | 「三田市子ども・子育て支援事業計画」においては、家事や育児負担をお母さんだけの負担にしないために男性の育児促進等を盛り込んでいます。そのうえで特に色々な状況にあるお子様については、「力を入れてサポートをしていきましょう」という文言が(3)と(4)にあります。 |
| 委員 | 女性の貧困という言葉が欲しいと思います。 |
| 事務局 | この支援事業計画の文中にという意味でしょうか。 |

| | |
|-------|--|
| 委員 | (3)(4)の問題の根底にあるのは、女性の就労制度の欠陥です。特に、女性のひとり親にしわ寄せが来ていると思うので、女性の貧困が根底にあるというニュアンスが伝われば良いと思います。 |
| 事務局 | ご意見は承知いたしました。ただ、申し訳ないのですが、令和2年度から5年間で計画がスタートしていますので、事業を実施する過程ではそのような点に留意して実施していくように努めていきたいと思います。 |
| 学校関係者 | 資料3を読む中で、難しい用語がたくさん出てきますが用語解説がある用語と、ない用語があります。記載しているものに対して印がついてあると良いと思います。 |
| 事務局 | 本文中に※印を入れる予定です。 |
| 学校関係者 | 「学習指導要領」の用語解説はありますが、可能であれば、「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を追加していただきたいです。 |
| 事務局 | 入れさせていただきます。 |
| 委員長 | 「PDCA サイクル」の用語解説について、AがActになっています。経営学ではこれでよいのですが、教育ではActionとしているので、修正をお願いします。 |
| 事務局 | ご指摘ありがとうございます。修正させていただきます。 |
| 副委員長 | 用語解説の「レジリエンス」について、ここだけ英語表記になっています。他との整合をとり、カタカナ表記だけに統一してはいかがでしょうか。 |
| 事務局 | そのように修正いたします。 |
| 委員長 | (6) 答申(案)について それでは次に答申案について、進みます。 本日を含めて計6回審議してまいりました。先ほど審議いたしました修正箇所等を整えた計画案に、資料5の鏡文を添えて答申したいと思いますが、いかがでしょうか。(異議なし) では、本日分を取りまとめて検討委員会からの答申を行うことと、いたします。 「3 議事」はこれで終了します。 |
| 委員長 | 4 その他 それでは、議事が終了しましたので、「4 その他」に進みます。 計画案の答申の流れを事務局からご説明いただけますでしょうか。 |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | 事務局（説明） |
| 委員長 | それでは、10月6日に私から答申を行いたいと思います。 よろしいでしょうか。（異議なし） |
| 委員長 | では、次に「(2) 審議を終えて」に進みます。 検討委員会もこれで最後ということで、各委員の皆様から名簿順に審議を終えての感想等を一言頂戴したいと思います。 |
| 委員 | 私は、子どもは、子どもたちの中で育つということを一番に感じています。今回のお話にもありました、自己指導能力について学びになりました。これからの社会を生きる子どもたちのための教育が一番だと思います。ぜひ、子どもたちにとって良いものを進めていただけたらと思っています。また、生涯学習審議会としては多様な市民団体が沢山ありますので、それとの連携を学校と進めていき、より多くの学びと機会を双方に与えていただけたら幸いかと思います。事務局の皆さんと学校現場の皆さんの努力で、このようにまとめていただけて感激をしております。 |
| 委員 | 本当に学びの多い会でした。先ほどの委員長のお話の自己指導能力については、子どもの権利条約にも「自己決定力」という言葉があり、まちづくりについても、子ども中心のまちづくりをこれから考えていかなければならないと思います。 5年前に比べると、スクールソーシャルワーカー、貧困やヤングケアラーなど時代が変わって課題が出てきていると感じます。学校だけが抱え込むのではなく、地域としては生きがいややりがいを感じながら動いていますので、地域にも投げかけていただきたいと思っています。 会議の中で色々な勉強させていただき、コミュニティ・スクールについての思い込みもほぐれましたし、良い勉強になりました。 これからも子どもを中心にした地域こそが豊かな地域になると信じていますので、子どもの支援を続けたいと思います。 先日、ロータリークラブさんが、子ども食堂の支援に参加され、オンライン会議を行った際に、ヤングケアラーや貧困がNEWS上でのことではなく、三田市にもあるときいて驚かれていましたので、これからも発信していき、みんなで考えたら良いと思いました。 |
| 委員 | 今回この振興計画の検討委員会では、新しく色々なことを勉強させてもらったと思います。私は点検評価委員もさせてもらい、第2期の計画に基づいた評価をしていますが、第2期と3期では時代によって新しいことも増え、新しくできた計画に基づいて子どもたちにどうやってそれを実現させていくのか、目標にどのように近づいていくのか、実際にはもっと大変なことだと思います。 これから教育委員会の方や学校の先生には計画に沿って新しいことをやって行っ |

| | |
|----|--|
| 委員 | <p>てもらわないといけないことも沢山あるように感じたので、自分たちがつくった計画がどのように実行されているのかを楽しみに見ていきたいと思いました。</p> <p>P T Aとしてこのような会議に出席させていただき、色々と勉強させていただき、学ばせていただきました。先ほど、委員から学校の閉鎖性という意見がありました。八景中学校ですが、このコロナ禍で消毒のボランティアをしています。学校の先生ができないことも親として協力できることがあるので、学校側が出してくれればP T Aとしてもっと協力ができることがあるのではないかと感じたこの2年間でした。「開かれた学校」のもとに、この計画が机上の空論にならないように進めてもらいたいと思います。</p> |
| 委員 | <p>私自身が勉強不足で皆さんのお話を聞きながら学ばせていただくことばかりでした。三田市の子どもたちの教育の基礎になるためにこれだけの方々携わっていることも、検討を重ねていくことも、初めて知りましたし、その場に立ち会えたことを本当に光栄に思います。子どもたちにより良い教育を受けてもらうためにも私たち大人が学ぶ姿勢を持ち続けなければいけないと改めて思いました。本当に良い経験をさせていただいたと思います。ありがとうございました。</p> |
| 委員 | <p>今回初めて、このような会議に参加させていただいて、外国人ながら日本の教育について学ばせていただきました。今回は保護者としての参加でしたが、このような教育の取組を見た時に、先生方の強いリーダーシップがあれば公立でも教育は変えられるという信念を感じさせていただきました。</p> <p>今回の三田市の教育がめざす姿や理念等それを見た時に、保護者としては、学校側が一生懸命してくれていることに対して、家庭教育と企業教育がしっかりしてこそ学校教育もより良くなるのだと感じました。</p> <p>今回のこの会議に参加させていただいて、より良い家庭教育のためにも、親として三田市の教育のために何か1つでも力になることがあれば、進んで働かせていただきたいと思いました。本当にありがとうございました。</p> |
| 委員 | <p>色々考えてお話ししようと思ったのですが、皆さんの感想を聞いていると決めたことを話すより、思ったことをそのままお伝えしたいと思います。</p> <p>最初の会議で、エビデンスという言葉が出てきて、携帯でエビデンスの意味を調べたことを思い出しました。自分の住んでいる世界ではないところで、色々な人や考えがあることや、自分では考えつかないようなことを吸収できたので、すごく勉強になりました。</p> <p>P T A活動の中で一番を思うことは、教職員の方が非常に大変な思いをしながら学校教育に携わっていることです。それを思うと、この会議が机上の空論になることや、重たい目標ができて現場で頑張っている人たちの負担にならないように、教職員や様々な人が、これならば皆で頑張っていけると思えるような形にして欲しいと思います。</p> |

| | |
|-------|---|
| 副委員長 | <p>この会議には校長先生も参加されていますので、現場で働く人の声等について、事前にメモなどでもあれば、それに対して、私たちも何かできることがあるのではないかと思います。</p> <p>他の委員がおっしゃっていたように、様々な意見交換をする中で、普段触れないような考え方やご意見等にも触れることができるとても興味深く拝聴しておりました。それぞれの立場から教育に参画しようとする時にどんな世界が見えているのか、どんなところが特に気になっているのか、違う立場の人たちが参加したことで、多様に聞かせていただけたと思います。</p> <p>兵庫教育大学の教員として、これからの教員養成を考えていくのですが、ここに参加されている皆様の意識が高いのは頭にありますけれども、保護者の方や地域の方や教育を応援してくれている人がいるということや、相互に支え合ったりしながら学校だけではなく、学校取り巻く全体が連携して進めていくことができるということを、教員をめざす学生に話して励ましていきたいと思いました。</p> <p>もう1つは、今回は、前回の計画と比べて様々な社会的な問題を意識しながら策定に関わったと考えているのですが、特にコロナの問題が起こったことで、専門発達心理学では、どの学年でどの経験世界の中でコロナに出会ったのだろう、その後の人生や全体的な人格形成にどのように影響していくのかが気がりでもあります。同時に、子どもたちは限定された中で、互いに学び合ったりする力があるのだということのを思い、後で何かを取り戻すかのようにより戻しを経験しながらも進んでいる姿が見られるのかに注目していきたいと思っています。ご意見を聞かせていただけるとありがたいと思います。</p> |
| 事務局 | <p>委員長の挨拶の前に先生の方々からも一言いただきたいと思います。</p> |
| 学校関係者 | <p>今も子どもたちは不安な日々が続いています。職員には、2学期の初めに「どんなことがあっても、どんな変更があっても、希望を持って前へ進める良い方法を考えよう」と話をしました。生徒も職員も一生懸命どうしたらできるのだろうと考え、変化に対応してくれています。このようなことが、今後、求められているのだろうと思います。</p> <p>いつもの時間にいつもの人がいるということは安心感になると思います。私は、毎朝、生徒たちが登校する校門に立って、元気に挨拶を続けているところです。地域や家庭の皆様も子どもたちに声かけをしていただき、安心感が良い学びに繋がっていると考えていますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思っています。</p> <p>この5年間の計画を広く皆様と共有しまして、一緒になってたくましくしなやかに生きる三田の子どもたちを育てていきたいと思っています。この会議に参加させていただいた後には学校現場でこの計画を広めていくのが次の私の責任だろうと感じています。ありがとうございました。</p> |
| 学校関係者 | <p>学校現場では、子ども取り巻く色々な状況が出てきております。5年前とはかなり</p> |

| | |
|-------|---|
| | <p>状況が違うなど感じています。その中で今まででしたら、学校と教育委員会の教育関係者だけで対応できていたことが、これからの時代は、先ほどもありましたが、保護者、地域、各関係機関、福祉、そのようなところと連携を密にしながら地域の皆さんや、三田市民の皆さんと共に歩んでいかなければいけないと考えています。そういった中では、基本方針をこれから保護者や地域やそして市民の方とにかく広めていくか、そして、理解をしてもらって連携していけるのかが、今後の5年間の大きな鍵になるのではないかと考えております。</p> <p>現場の1人として保護者や地域や取り巻く市民の方とこの教育方針を広めながら一緒に連携を取っていきたいと考えております。皆様方とこの会を通じて出会えたこと良かったと考えております。</p> |
| 学校関係者 | <p>現場では先の見えない今日の授業、明日の活動を考えることに四苦八苦している状態です。そうした中で、この会に参加させてもらうことによって、目線を高く少し先の方に持っていき、また、視野も広く持たせてもらえる、そのような時間を過ごすことができました。ありがとうございました。</p> <p>また俯瞰的に自分の学校を見ることもでき、本当に貴重な体験をさせてもらいました。皆様方からのお話を聞かせてもらって学校だけで四苦八苦するのではなく、地域の方やPTAの方や皆さんと一緒にやればいいのかと感ずることができ、自分自身でも地域に発信するというのをこの会の中で知り、実践できるようになりました。本当にありがとうございました。</p> |
| 学校関係者 | <p>幼稚園ではまず子どもが安心して過ごせる環境づくりが大切であると考えて今も取り組んでおります。このコロナ禍で一人一人の子どもたちが幼稚園児なりにとっても不安に思い、いつもと表情が違ったり、あまり食欲がなかったりというような様々な小さな変化に気をとめながら、取り組んでおります。</p> <p>この会については、私自身も本当に多くのことを学ばせていただきました。その中で、令和の日本型学校教育のめざすべき姿として、「すべての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現」、「子どもが様々な学習の機会や体験を通して自尊感情を高めていくこと」については、これからの時代を生きる子どもたちには大事なことと感じました。</p> <p>小学校以降の学びについて沢山聞かせていただく中で、改めて幼児教育の重要性を実感いたしました。幼児教育の分野でも、文科省が今年5月に「幼児教育スタートプラン」を公表しまして、7月に中教審が「保幼小架け橋プログラム」の策定に向けた「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」での議論が始まりました。そこでは、すべての5歳児に生活や学習の基盤を保障することや、市町村教委と連携して、小学校教育に円滑に接続することなどをめざすと示されています。三田の教育においても、すべての子どもが格差なく質の高い学びを保障され、また、幼児教育においては、その学びが小学校へと円滑に接続できるように学びや生活の基盤の育成に取り組んでいきたいと考えております。ありがとうございました。</p> |

| | |
|------------|--|
| <p>委員長</p> | <p>最初に、夕ご飯の時間や家族のだんらんの時間、そういった夜の時間に、皆様にお集まりいただき、ご審議いただきまして大変感謝申し上げます。本当にありがとうございました。</p> <p>私は専門が教育方法学ですので、子どもたちがいかに問いを持って学び続けるのか、問いを持って学び続けることが学問だと思っているので、問いのないところで学ばせるのではなくて、問いを持って学び続けるということが重要だと思っています。</p> <p>そのためには体験が重要だといつも思っており、知的好奇心というのは何も無いところでは生まれないと思うので、体験が1つのきっかけとなるのではないかと思っていたのですが、このコロナ禍ということになってしまいました。</p> <p>これからこの計画策定の5年間、目の前の子どもたちがこれからコロナ世代と呼ばれるような、レジリエンスが、たんなる耐え忍ぶばかりといった形にならないかと危惧しています。そうではなく、学校教育は元気はつらつ、のびのびと子ども時代を過ごしてもらえれば良いかと思っています。ぜひとも心身ともに健康で、元気に子どもたちが育っていくように、学校と家庭と地域が、挨拶をして笑顔で子どもたちを励まし合う地域になっていただければ大変ありがたいと思っています。</p> <p>ぜひ私たちが審議、検討したことが実りある冊子になって、現場や家庭や地域の中に入って行って、実質化されることを望みたいと思っています。</p> <p>本当に皆様ありがとうございました。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>5 閉会あいさつ</p> <p>熱心にご議論いただきましてありがとうございました。それでは閉会にあたり鹿嶽教育長からご挨拶を申し上げます。</p> |
| <p>教育長</p> | <p>(挨拶)</p> |
| <p>事務局</p> | <p>6 閉会</p> <p>それではこれを持ちまして三田市教育振興基本計画検討委員会を閉会とさせていただきます。皆様長時間ありがとうございました。</p> <p>(閉会)</p> <p>(委員会当日ご欠席された委員からいただいたご感想を掲載します)</p> <p>昨年の年末から約1年間の策定に参加させていただき、ほんとうにありがとうございました。あたらしい基本計画書が形になり、教員養成に関わる者として感慨ひとしおです。三田市の皆さまの『子どもたちには等しく学ぶ機会があり、一人一人が大事にされるべきである』という姿勢を、毎回ひしひしと感じながらの参画でした。</p> <p>今回の基本計画づくりは、これからの5年間のための教育の柱づくりであると同時に、三田市に育つ子どもたちの未来のための柱づくりであったと思います。</p> |

5年前には現在のパンデミックは私自身想像だにしておりませんでした。もし、あらかじめコロナの流行が分かっていたら、こうしておけば良かったという思いは多々あります。これをふまえますと、次の5年、さらに未来にも、『何か』起きるといふ心構えを持つことが大事であり、そのことは今回の計画には随所に深いところで盛り込まれたと感じております。

三田市の教育の前進にご協力できることがあれば、微力ですが今後ともご協力させていただきたく存じます。計画に盛り込まれた目標が豊かに実をむすびますこと心から願っております。